

妙義山の景観と季節の彩りを楽しみましょう

妙義山(中間道)

実施日 2012年10月27日(土)
 天候 曇
 リーダー 鈴木 政三
 参加者 服部美千代、鈴木政三、石附智江、伊藤久雄、石原勝正、宇野輝代、岩崎陽子、古川美恵子、長濱隆行、長濱あゆみ、徳山敬子 計11名
 費用 JR電車9,220円(東京起算)
 タクシー340円
 タイム 松井田駅(タクシー9:05・9:15)道の駅みょうぎ(9:25・10:35)第2見晴台(10:45・11:20)あずまや(11:25・12:55)第4石門(13:30・14:10)石門入口(14:20・14:30)一本杉入口(14:30・14:50)金鶏橋(14:50・15:20)道の駅みょうぎ(タクシー15:30・15:40)松井田駅(15:58)

予約したタクシーで道の駅みょうぎに向かう。道の駅から大鳥居をくぐり妙義神社の参道を行く、本殿は平成19年台風9号の大雨による裏地の崩壊で修復中のため見学できず。手前の旧本殿(波己曾社)で今日の安全を祈願する。



赤門を通り一旦車道に出てから道標がある登山道に入る。第一見晴では金鶏山や麓を望む、紅葉を期待したがまだ早い。

枯れた大黒の滝を過ぎ、岩峰群の眺めが素晴らしい第二見晴に着く。さらに進むと本読みの僧と書かれた自然石を見てあずま屋に出る。小さなアップダウンが続き、やがて急勾のかなり長い鉄階段で岩稜登る、混んでいる時はすれ違いが大変だ。岩をくり抜いた天井の低い底の下を歩くようになる。底を抜けると前方が開け大砲岩の分岐に出る。



大砲岩では最初の鎖場まで行き様子を

見るつもりでいたが、岩が濡れていない、混んでいない、等条件が良いので大砲岩までいく、鎖を頼りに慎重に一枚岩をトラバース、直登、そして手摺のある狭い廊下を渡りテラスに出る、緊張の連続、



テラスは我々11人で満杯。奇岩群の神秘的な光景を堪能する。この先天狗の評定は上級者向き。分岐に戻り緊張感から解放

され一息つくころ、岩峰に巨大な穴があった第四石門に出る。中を通り抜け振り返ると穴から大砲岩が望め、まるで額縁に入った絵のようだ。広場と休憩所があり遅い昼食をとり、見晴に上がり金鶏山の岩峰群望む。中之岳神社への道を右に分け、第三石門を鎖に手を添えながら往復する。



巻道を左に分け第二石門に向かう。第二石門は急勾配の鎖場を2カ所登る。狭い岩の間を抜けると急勾配の下りの鎖が待っていた。慎重に降りきるとすぐ一枚岩のトラバース、ここも鎖につかまりながら慎重にわたる。カニの横ばい、た



てばり、つるべ下がりと呼ばれている鎖場を無事通過した。第一石門は第四と同様に大きな石門で、これを

通り抜け最後の鎖(カニのこてしらべ)を下りて車道に出る。帰りは車道を歩き妙義山の全景を眺めながら一本杉から山道に入り金鶏橋に抜け、また車道歩きで道の駅みょうぎに戻る。今回は長い鉄階段、大砲岩、そして第二石門鎖場も順調に進めたが、混雑時は順番待ち等でかなり時間ロスが生じると思われる。

(記・鈴木 政三)
 (写真提供・伊藤 久雄)